

2014年 4月 15日

新宿区長 あて

法人名 特定非営利活動法人 難民支援協会
 所在地 東京都新宿区四谷 1-7-10 第3 鹿倉ビル 6 階
 (フリガナ) ナカムラ ヨシユキ
 代表者氏名 代表理事 中村 義幸

事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 助成対象事業

事業名	新宿区減災まち歩き事業
実施日時又は期間	2013年4月から2014年3月 (2013年6月から助成対象事業として実施)
対象者の範囲及び人数	日本国籍・外国籍問わず、新宿区において在住・在勤（活動）・在学しているすべての人。 (当事業の参加者定員は60名)
事業内容	本事業では、主に新宿区において在住・在勤（活動）・在学している人を対象に、弊団体の事務所がある四谷地域と早稲田（戸塚）地域において減災観点からの「まち歩き」を実施した。実施にあたっては新宿区のNPOに協力していただいたが、特に早稲田地域での減災まち歩き開催にあたっては、その地域に拠点を置く「一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター（PBV）」、「NPO 法人国際協力 NGO センター（JANIC）」、「早稲田大学」などと協働して取り組んだ。 今後後新宿区の他の地域に当事業を波及させていく足がかりや、災害時の協力関係・体制を強化するきっかけとなった。
具体的な活動状況	<p><主たる活動></p> <p>○四谷減災まち歩きコース下見（2013年8月8日） 場所：四谷地域センター・四谷地域 内容：弊会の事業担当者、事業補助者、実施補助者の3名で四谷減災まち歩きのコース下見および予行歩きを行った。まち歩きでめぐる場所の決定およびルート確定などを行った。</p> <p>○関係者ミーティング（2013年10月1日） 場所：早稲田奉仕園 内容：本事業を実施するにあたり、新宿区のNPOとして新宿区のその</p>

他の NPO と協働して運営・実施していくことも目標の一つとした。
その他の NPO と協働して運営・実施していくにあたり、事前にも個別ミーティングや電話などでの打ち合わせは行ったが、改めて協働する NPO が一同に会し減災まち歩きの実施にむけたミーティングを行った。具体的には、災害対応に関する見識や経験が深く、当事業の実施地域に事務所をおく一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター(PBV)と NPO 法人国際協力 NGO センター(JANIC)の災害対応担当者とともに具体的な取組内容の検討・確認を行った。
また、今後も新宿区内の他地域において知識の共有・展開を考え、緊急支援活動への造詣が深く、同じく新宿区に事務所を構える NPO 法人公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 (SVA) にも参加していただいた。同じ地域で活動する NPO 法人のネットワーク強化にもつながった。

○ 四谷減災まち歩き (2013 年 10 月 26 日)

内容：四谷減災まち歩きを実施予定であったが、大型台風が直撃という予報を受け、参加者の安全を考え開催をキャンセルした。
参加者には個別に連絡をしたが、情報が伝わっていない参加者の来場可能性を考え、事業補助者（弊会職員）が当日対応のため会場で待機した。

○ 四谷減災まち歩き (2013 年 12 月 8 日)

場所：四谷地域センター・四谷地域

参加者：23 名（外国人参加者 4 名）／事前申込者 37 名

内容：当初 10 月 26 日に開催予定であった四谷地域の減災まち歩きであるが、台風によるキャンセルで 12 月 8 日へ延期となった。
また四谷地域の町会を戸別訪問、町会管轄の掲示板などでも告知を行い、四谷地域の民生委員の方なども参加した。また新宿区の NPO 法人や災害関連の NPO 関係者も多く参加した。
当日の参加者全員にまち歩きガイドブック、まち歩きマップを配布し、外国籍参加者にはさらに、多言語版の災害ハンドブックを配布した。
防災士資格も持つ弊会の緊急人道支援専門家（実施補助者）が四谷地域センターにてまち歩き前後にレクチャーを行った。
また、先導役としてまち歩き参加者を引率しながら、避難所や防災倉庫の場所、避難の際に気をつけることなどを解説した。参加者は、解説を聞きながら、まち歩きガイドブックやまち歩きマップに、AED のある場所や電線が多く危険な場所など、自分自身が気づいた情報を書きこむことで、参加者のオリジナルの避難ツール（オリジナルガイドブック・マップ）を完成させた。

○関係者間ミーティング (2013 年 12 月 26 日)

場所：認定 NPO 法人難民支援協会

内容：早稲田（戸塚）・高田馬場地域での開催にあたり、弊会の職員と協働する各 NPO（一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター(PBV)・NPO 法人国際協力 NGO センター(JANIC))、および早稲田大学の関係者とのミーティングを行った。

四谷地域の減災まち歩きに関する実施報告を行い、今後の減災まち歩きにどのように行かせるかを話し合った。
また 2014 年 2 月に開催する早稲田（戸塚）・高田馬場地域の減災まち歩きの具体的な内容・ルート of 検討や広報方法の確認などを行った。

○ 関係者間ミーティング（2014 年 2 月 17 日）

場所：新宿 NPO 協働推進センター・早稲田（戸塚）・高田馬場地域
内容：一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター(PBV)・NPO 法人国際協力 NGO センター(JANIC)とともに、週末に開催する早稲田（戸塚）・高田馬場地域の減災まち歩きの進行方法やルート of 最終確認を行った。また、23 日までの各団体・者のタスク・担当部分などの確認を行い、本番に向けて最終調整と擦り合わせを行った。さらに、ミーティング後、弊会の事業担当者 2 名で最終予行コース歩きを行った。

○ 早稲田（戸塚）・高田馬場 減災まち歩き（2014 年 2 月 23 日）

場所：新宿 NPO 協働推進センター・早稲田（戸塚）・高田馬場地域・早稲田奉仕園

参加者：26 名（外国籍者 4 名）／事前申込者 36 名

内容：早稲田（戸塚）・高田馬場 減災まち歩きでは、冒頭に新宿区地域調整課様より新宿区 NPO 活動資金助成および当事業（新宿区減災まち歩き事業）のご紹介をいただいた。また新宿区による NPO への支援の説明や、NPO 活動に対する応援のメッセージもいただいた。

次に、都市／地域研究・まちづくりがご専門である早稲田大学の阿部先生より当該地域の防災・減災についてレクチャーをいただき、参加者が災害時における地域課題を把握した上でまち歩きを実施した。

減災まち歩きをはじめ際には、参加者をチームに分けし、減災の視点で気になった点・場所などを各チームごとに記録・写真撮影をした。まち歩き後には一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター(PBV)によるモデレートのもと、各チームの撮影した写真データを参加者全員で見ながら、各チームでの気づきを発表、その他の参加者と共有した。また、今回まち歩きを実施した戸塚地区の自治会長に、地域の減災への取組みや今後のビジョンについてお話いただいた。

当日の参加者全員に減災まち歩きマップを配布し、外国籍参加者にはさらに、多言語版の災害ハンドブックを配布した。

当初、約 10 名の在住外国人が参加申し込みをしていたが、実施時期にインフルエンザが流行してしまい、体調不良により当日参加できなかった方も多かった。しかし参加した在住外国人が各民族コミュニティのリーダーであったため、まち歩きへの参加により自治会長などとのネットワークが生まれた。

○関係者間ミーティング

場所：新宿 NPO 推進センター

内容：今回の事業で協働した一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター(PBV)、NPO 法人国際協力 NGO センター(JANIC)とともに減災まち歩き事業の実施報告と情報共有を行った。今後、各団体

	<p>において発展的な取組みを行っていくとともに、新宿区の NPO や災害対応関連の NPO にも当取組みの発信を行っていく。</p>
<p>事業の成果</p>	<p>○弊会単独で行うのではなく、新宿区に根ざす外部の NPO（特に災害対応などに見識のある NPO）と協働して事業を実施したことで新宿区内の NPO 同士が顔の見える関係になり、今後の活動や取組の連携・協力体制の基礎ができた。また、弊団体が事務所を構えている四谷での開催にあたって、町会長の方々へ戸別訪問や、町会会議への出席・活動発信などにより、地域での弊会の認知が高まった。当取組みを通じ、地域住民と顔の見える関係となり、災害発生時などの緊急時に協力し合うことのできる関係の第一歩を踏み出すことができた。</p> <p>○災害時に地域での支援活動を担う、自治会長の方や役員の方、民生委員の方に参加していただき、また一方で地域の在住外国人や在住外国人支援をする NPO が参加し、減災について共に考えることで、災害対応に見落とされがちな多文化共生の視点を、互いにより持つことができた。</p> <p>○減災まち歩き参加後に、参加した民生委員の方などが周囲に当取組みの重要性を紹介してくださり、今後の地域の開催が検討されたり、参加した在住外国人から新宿区以外の出身国籍のコミュニティでも開催したいとの声があがるなど、区を超えて様々なプラスの波及効果があった。</p> <p>○今回の事業により作成・増刷された多言語のまち歩きガイドブックやまち歩きマップ、また多言語の災害ハンドブックは、まち歩きの参加者に配布されたのはもちろん、その参加者が家族や友人など周囲の人々の分も持ち帰り配布したことにより、参加者のみならず、より多くの新宿区在住・在勤（活動）・在学者へ取組みの効果を波及させることができた。</p> <p>また、上記の成果物は各地域センターなどのご協力により「新宿 NPO 推進センター」、「戸塚地域センター」、「しんじゅく多文化共生プラザ」にて設置していただくことになり、より多くの在住・在勤（活動）・在学者へ多文化共生の視点に基づいた災害対応のリソースを提供・発信することに成功した。</p>

2 助成対象事業費内訳（実績）

※ 内訳は、できるだけ「単価×数量」で示してください。

※ 1万円以上のものについては、領収書（写し可）を添付してください。

収入	経費	積算根拠（内訳）		金額
	団体負担金	寄付金		719,663 円
	参加費・資料代等			0 円
	その他の収入			0 円
	協働推進基金助成金	助成金交付額		400,000 円
	計			1,119,663 円
支出	費目	決算額	内訳	
	会議費	3,850 円	会議室利用料 3 件 2,400 円×1 回（四谷地域センター） 650 円×1 回（新宿 NPO 協働推進センター） 800 円×1 回（新宿 NPO 協働推進センター）	
	宣伝費	15,920 円	チラシ印刷 50 円×225 面 11,250 円 チラシ印刷 10 円×467 面 4,670 円 チラシ印刷 4,020 円（コンビニ①） チラシ印刷 800 円（コンビニ②） チラシ印刷 6,100 円（コンビニ③） チラシ印刷 600 円（コンビニ④） チラシ印刷 4,400 円（コンビニ⑤）	
	リース費	0 円		
	消耗品費	20,552 円	コピー用紙計 3 箱 7,402 円（15,000 枚） プリンタトナー 4,480 円×2 本 バインダー 35 冊 4,190 円	
	謝礼	430,000 円	講師謝礼 3 万円×4 件 120,000 円 通訳謝礼 3 万円×2 件 60,000 円 翻訳謝礼 2 万円×2 件 40,000 円 翻訳謝礼 3 万円×5 件 150,000 円 地図作成謝礼 1 万円×1 件 10,000 円 地図作成謝礼 2 万円×1 件 20,000 円 地図作成謝礼 3 万円×1 件 30,000 円	
	人件費	160,000 円	事業担当者人件費 4,000 円×40 日 160,000 円	

材料費	310,947 円	まち歩きマップ印刷 7,955 円 まち歩きマップ印刷 12,000 円 まち歩きマップ印刷 3,980 円 (コンビニ①) まち歩きガイドブック印刷 50,980 円 まち歩きガイドブック印刷 49,600 円 災害ハンドブック印刷 156,480 円 災害ハンドブック印刷 22,592 円 災害ハンドブック印刷 7,360 円
交通費	39,880 円	事業担当者通勤費 520 円×40 日 20,800 円 その他交通費 52 件 19,080 円
その他諸経費	25,284 円	振込手数料 6 件 954 円 郵便局 9 件 10,330 円 郵送料 80 円×175 通 14,000 円 ヤマト運輸 10,160 円+金券ショップ切手 3,840 円)
助成対象事業費 (小計)	1,006,433 円	
余 剰 金	0 円	
助成対象外事業費	113,230 円	事業補助者人件費 11,323 円×10 日間 113,230 円
事 業 総 額		1,119,663 円

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた目標について、どこまで達成できたか。	<p>計画時に掲げていた、以下の目標について達成することができた。</p> <p>① 在住・在勤 (活動)・在学者が減災の観点から地域をよく知り、災害時に参加者が身を守りやすくなる。</p> <p>② 国籍にかかわらず、新宿区の区民や在勤者同士が「新宿区減災まち歩き」への参加を通じ、友好を深め、顔の見える関係になる。 (=自助・共助の基盤づくり)</p> <p>③ 新宿区に基盤をおく各 NPO と協働し、異なる地域で実施することにより、より多くの在住・在勤 (活動)・在学者への理解が広まる。</p> <p>④ 在住・在勤 (活動)・在学者が主と直下型地震時の避難シュミレーションをすることができる。</p> <p>⑤ 新宿区の各 NPO と協働することにより、地域の NPO と在住・在勤 (活動)・在学者との間に交流が生まれ、顔の見える関係になる。</p>

	<p>またそのことにより、NPO 側も今後より地域に根ざした活動ができるようになる。</p>
<p>地域にどのような効果があったか、又は今後見込まれる効果は何か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が当取組みの紹介を町会の集まりで行ったところ、町会でも独自の減災マップを作成しようという意見が出ているという。当取組みを通じ、地域の減災取組みの発展が期待できる。 ・在住外国人が参加したことで、参加者の住民同士につながりが生まれた。今後、国籍に関係なく地域の住民同士が顔の見える関係となるための第一歩となった。 ・弊会を含め、今回協働した新宿区の NPO が、より地域に根ざした活動を行っていくことができる基盤ができた。
<p>費用対効果は適正であったか。</p>	<p>チラシ印刷は最低限に押さえ、各地域センターや町会掲示板に効率的に掲示していただくなどした。また、その他の広報（各 NPO からの直接の声かけや、各 NPO の持つメーリングリストを活用した広報など）に力を入れることにより、費用をかけた告知活動を行った。</p> <p>各まち歩きの事前申込者に関しては、定員を超える状況で、当日参加者に関しては予想定員通りに実施することができた。</p>
<p>新たに気づいた課題・問題点は何か。また、どのような対策が考えられるか。</p>	<p>まち歩きを行っていくなかで、避難所の案内をはじめ、まちなかの案内板が在住外国人には理解できないとの声があった。地図や分かりやすいイラストなど視覚的な配慮や、案内版の多言語化などの対策が考えられるのではないかという意見があった。</p>
<p>理解者や支援者が広がったか。</p>	<p>新宿区の在住だけでなく、在勤（活動）・在学を参加対象としたことで、特に減災まち歩き開催地域であり四谷地域、早稲田（戸塚）・高田馬場地域にゆかりのある人々同士が顔の見える関係となった。（住民と地域の大学の学生、あるいは住民と地域の NPO など）実際に災害が起こった際には、住民だけでなく在勤（活動）・在学など地域にゆかりのある人たち全員で協力する必要がある。今回の取り組み参加者の減災に対する意識が深まったとともに、家族や友人などにも知らせたいという声もあり、当取組み実施後の波及効果も考えられる。また、参加応募者の言語圏に合わせて通訳対応な</p>

	<p>どを行ったことにより、日本人のみならず地域の在住在勤外国人も参加し、お互いに顔を合わせる貴重な機会ができた。</p> <p>また、弊会の支援者自体の広がりもあった。減災対応に関心があり参加された方が、主催者である弊会の難民支援活動にも興味を示され、ニュースレター送付の希望をされるなどという実例もあった。</p>
事務局の執行体制は十分だったか。	<p>本事業は、団体内のリソース、また新宿区の外部NPOの力もお借りし、十分な運営体制を確保することができた。</p> <p>団体内においては事業担当者1名が事業を統括し、事業補助者1名（災害対応有識者）、実施補助者1名（緊急人道支援専門家）の3名を中心とする体制をとった。外部NPOとの協働においては、新宿区に事務所を構える二つの団体の協力体制のもと、事業運営・実施を行った。</p>
今回の事業を次年度以降も継続していく場合、助成金だけに依存せず、今後も安定的に事業を継続するための財源確保等に向けた取り組みはなされていたか。	<p>平時より団体としてファンディング活動を行っている。今回の事業に関しても、助成金以外の約6割を独自でファンディングを行い、財源を確保した。今後もSNSなども活用し、更にファンディング活動に力を入れていくことにより、事業の発展を目指していきたい。</p>

4 活動の成果

* 事業の成果物（冊子など）又は、事業の開催時の写真など提出できるものがある場合は添付してください。
* 参加者の意見なども報告してください。

※ 添付資料

【事業成果物】

事業成果物が多数のため、事前に新宿区地域文化部地域調整課管理係に提出済み。

- ・ 減災まち歩きガイドブック（日本語・英語）
- ・ 減災まち歩きマップ（日本語・英語）
- ・ 災害ハンドブック（英語・ビルマ語・ネパール語）

【減災まち歩きの写真】

- ・四谷減災害まち歩き：まち歩きの様子



- ・四谷減災害まち歩き：レクチャーの様子



- ・四谷減災害まち歩き：避難場所などの確認の様子



・四谷減災まち歩き：振り返りの様子



・早稲田（戸塚）・高田馬場減災まち歩き：レクチャーの様子



・早稲田（戸塚）・高田馬場減災まち歩き：レクチャーの様子（2）



・早稲田（戸塚）・高田馬場減災まち歩き：まち歩きの様子



・早稲田（戸塚）・高田馬場減災まち歩き：グループ発表の様子



【減災まち歩き参加者アンケート】

・四谷減災まち歩き：アンケート（回収 11 名）

No.	どこで知ったか	参加した動機	今回のイベントに関する意見・感想		
			時間	場所	その他
1	認定NPO法人難民支援協会	・減災・災害対応に関心があった ・地元だったので	参加しやすい	参加しやすい	
2	認定NPO法人難民支援協会	・減災・災害対応に関心があった ・まち歩きに興味があった	参加しやすい	参加しやすい	・時間的な長さとしては適切だったと思うが、距離的にはもう少し短くてもいいかもしれない。
3	認定NPO法人難民支援協会	まち歩きに興味があった	参加しやすい	参加しやすい	
4	知り合いから	・減災・災害対応に興味があった ・発生時の対応をどうするか ・備えて何をすればいいか ・地元(茅ヶ崎・湘南)で活動するための参考として	参加しやすい	参加しやすい	・災害対応を得意とするNPOなどにつながれたことはありがたい ・次回はケーススタディを通して 行政・自治体など/新宿・四谷NGO がどう動くべきかを議論したい ・3.11時 東京での各NGO、行政、避難した人たちはどう動いていて、何が課題だったのか学びたい
5	知り合いから	・減災・災害対応に興味があった ・地域の人と交流したかった	参加しやすい	参加しやすい	
6	知り合いから	・減災・災害対応に興味があった	参加しやすい	参加しやすい	
7	認定NPO法人難民支援協会	・減災・災害対応に興味があった ・まち歩きに関心があった			
8	知り合いから	・減災・災害対応に興味があった ・多文化共生に興味があった ・まち歩きに興味があった	参加しやすい	参加しやすい	
9	知り合いから	・まち歩きに関心があった		参加しやすい	・ガイドが更に色々な情報を紹介してくれると良い。
10	認定NPO法人難民支援協会	Being interested in disaster response and preparedness		easy to participate	・It's good to know where you can run and go in case of sudden problems occurs.
11	知り合いから	Being interested in disaster response and preparedness			

・早稲田（戸塚）・高田馬場減災まち歩き：アンケート（回収 14 名）

No.	どこで知ったか	参加した動機	今回のイベントに関する意見・感想		
			時間	場所	その他
1	認定NPO法人難民支援協会	・災害から自分を守りたいから ・別の国の人を知りたかったから	参加しやすい		
2	早稲田大学	・減災・災害対応に関心があった ・多文化共生に関心があった	参加しやすい	探しにくい	
3	一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター	・減災・災害対応に関心があった ・社会貢献に関心があった	参加しやすい	参加しやすい	・濃い内容で充実していた。 ・普段街中をあまり歩かないので発見が多かった。
4	一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター	・減災・災害対応に関心があった ・まち歩きに関心があった	参加しやすい	参加しやすい	・地域のどのような所に防災NPOがあるとか、普段何気なく見ているところが一時避難場所になっていたりと、知らないことが多くあり、地元でも自分なりに探してみようと思った。ありがとうございます。
5	認定NPO法人国際協力NGOセンター	・減災・災害対応に興味があった	参加しやすい	参加しやすい	・いろいろ勉強になりました。 ありがとうございます。 ・新宿区の職員（区内在住は10%以下）も昼間区民も戸塚地域をもっと知るべき。今回のようなかたちで。
6	認定NPO法人国際協力NGOセンター	・社会貢献に関心があった ・地域の人と交流したかった	参加しやすい	参加しやすい	
7	知人	・減災・災害対応に興味があった	歩く時間を30分減らす	中野区（中野区でも開催して欲しい）	
8	知人	・まち歩きに興味があった	参加しやすい	参加しやすい	・もう少し座学の部分が多くてもよかった。 ・座学とまち歩きとの関連性をより強めると、学びも大きくなると思う。
9	認定NPO法人難民支援協会	・NPO活動資金助成事業に興味があった	参加しやすい	参加しやすい	・各班のフィードバックの時間は、それぞれの特徴が出ていた。
10	認定NPO法人難民支援協会	仕事に大きく関連するため	参加しやすい	変えてほしい（別の地域でも行って欲しい）	・地域の方の理解、協力を得ての実施という点、良かったと思う。
11	一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター	・減災・災害対応に関心があった ・在住区の外国人対象防災イベントでボランティアをしており、まち歩きを取り入れたい。	参加しやすい	参加しやすい	・多文化共生の内容になっていたのかは疑問が残った。 ・杉並区（国際）交流協会の外国人在住・在勤者対象の防災イベントでボランティアスタッフをしているので、減災まち歩きを取り入れたい。
12	早稲田大学	・減災・災害対応に関心があった ・まち歩きに関心があった	参加しやすい	参加しやすい	・グループを分けたのであれば、別々のルートを歩いて、より広域な情報を集めてもいいと思う。
13	早稲田大学	・減災・災害対応に関心があった ・多文化共生に関心があった ・社会貢献に関心があった	参加しやすい	参加しやすい	・外国人の防災意識に関する問題は常に感じている。 ・是非、外国人の方とのまち歩きを実現したい。
14	認定NPO法人難民支援協会	・減災・災害対応に関心があった ・多文化共生に関心があった ・まち歩きに関心があった ・興味がある地域だった	参加しやすい	参加しやすい	十分に時間がある企画で、地元の方々もお話しながら災害のリスクなどに「気付く」ことができました。天気も良く、気持ちの良い時間でもありました。ありがとうございます。